木場トシテ使用スルニ致度右ハ別ニ支障無之
哉及照会候也
追テ處置ノ次第御都合有之候間何卒取
急御回答相煩度中添候

ロ
六

十二月九日参事官室受

内務省 福警 第一號

七年一月七日受
決制 月 日
文書課長

大正六年十二月四日

主査 警務課長

施行 七年一月八日

警保局長

大臣

次官

参事官

會計課長

回答案

年月日

警保局長

福島縣知事宛

扶助料支給ニ関スル件経伺回答

本件ニ関シ客年十一月二十九日附己警収第七一四一號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通扶助料ヲ受クヘキ權利消滅スヘキ義ト存候条御了知相成度候

通牒案

年　月　日　警保局長

廳府縣長官宛（福島縣、東京府ヲ除ク）

寡婦分家シタル場合ノ巡査遺族扶助料ニ関スル件通牒

本件ニ関シ福島縣知事ヨリ別紙甲號寫ノ通照會有之乙號寫ノ通回答致置候条御參考ノ為及送付候

（別紙添付）

理由

案スルニ分家ハ離婚復籍又ハ他家相續等ノ場合ト其ノ趣ヲ異ニスト雖旧来ノ家ヨリ之ヲ見レハ全ク独立シ新ニ一家ヲ創設シタルモノニシテ法第十九條ニ所謂「巡査タリシ者死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル者」ニ該當セサルヤ勿論ナルヲ以テ扶助料ノ請求及其ノ支給関係ハ分家ト共ニ消滅スト解スルヲ以テ穏當ト被認候ノミナラス法第十九條ノ精神ヨリ考フレハ其家ニ在ラサル者ハ官吏遺族扶助料法第十四條及軍人恩給法第二十九條ニ所謂戸籍ヲ去リタル者ト同一ニ解釈スルヲ以テ相當ト認メラレ候条

本案ノ通御決定相成候様致度候

（寫）

孤児ヲ遺シテ分家シタル寡婦ノ扶助料請求權ニ關スル件

明治三十九年八月五日
兵庫縣乙第七六五號伺

死没軍人ノ寡婦孤児一名ヲ遺シ其他ノ子女ヲ携帯分家セシ場合其ノ寡婦ハ軍人恩給法ニ依ル扶助料ノ請求權消滅シタルモノナル如ク考フルモ元来分家ハ系統上本支ノ關係ヲ有スルモノナレハ普通離縁等ノ為軍人ノ戸籍ヲ去リタルモノトハ其ノ性質自ラ異ナル所アルヲ以テ依然該寡婦ニ請求權存スルモノナルヤ若シ請求權ナシトセハ其分家ヲ廢シ宗家ニ復籍合家シタルモノハ請求權回復スルモノナルヤ

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records http://www.jacar.go.jp/

明治二十九年八月二十四日
恩第外、陸軍省人事課

分家ヲ廢シ復籍ヲ為スモ一旦軍人ノ戸籍ヲ去リタル者ニ對シテハ法文中復權ノ規定ナシ從テ該寡婦携帯セシ子女ハ到底扶助料ヲ受クヘキモノニアラスト認ムルモ請求者ニシテ權利アルモノト自認シ請求セントセハ兎ニ角書類ヲ進達シテ可ナリ

寡婦分家シタル場合ノ學校職員遺族扶助料ニ関スル件

明治四十二年八月六日
福岡縣 學第四〇五三號

故長崎縣立五島中學校長兼教諭
正七位阪本龍寡婦
福岡縣福岡市荒戸町二百三十八番地平民
阪本サト

右阪本サトハ本年四月公立學校職員遺族扶助料ヲ受ケタル當時ハ亡夫阪本龍ノ實兄ナル新潟縣阪本有隣ト同一戸籍ニ候處故阪本龍ハ妻子ヲ携帯シテ長崎縣等ニ移住シ事實ニ於テハ夙ニ別居セルモノニ有之且生存中ニ於テ分家ノ遺恩アリタルコトハ別紙願書寫ニ依リ認定セラレ候

右ハ本人ノ申立ノ如ク亡夫ノ遺思ヲ継美シ扶助料ヲ以テ唯一ノ基本生活費トシテ子女ヲ教養セシカ為メ分家セシモノニ付他ノ離婚後籍又ハ他家相續ノ場合ト全ク其趣ヲ異ニスルヲ以テ扶助料受領權ハ持續スルモノト認メ可然乎至急御意見兼知致度此段及照會候也（別紙省略）

明治四十二年十月十二日
四五會三五號、文部省會計課

故長崎縣立五島中學校長兼教諭阪本龍寡婦遺族扶助料ノ儀ニ関シ御照會ノ趣了承御意見ノ次第モ有之候ヘ共分家ハ同法ニ所謂戸籍ヲ去リタルモノノ中ニ包含スル儀ト解釈シ從来ヨリノ取扱ニ有之候從テ本件請求權ハ持續シ得サル儀ト御了知相成度此段及回答候也

（参照）

巡査看守退隱料及遺族扶助料法

明治三十四年七月二十六日
法律第三十八號

第十九條　本法ニ於テ寡婦、子、等族ト称スルハ巡査又ハ看守タリシ者死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル者ヲ謂フ但父死亡後出生シタル嫡出ノ子ハ死亡當時其ノ家ニ在ル者ト看做ス

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

明治二十三年十月二日
法律第九十一號

第十三條　官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料

ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤児又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未満又ハ癈疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

官吏遺族扶助法

明治二十三年六月二十日
法律第四十四號

第十四條　扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

一、寡婦死去又ハ婚嫁シ若ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

二、孤児死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ満チタル月ノ翌月

三、父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

軍人恩給法

明治二十三年六月二十一日
法律第四十一號

第二十九條　扶助料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其權利消滅ス

一、重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

二、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

三、扶助料ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ七個年内ニ請求セサルトキ

四、死没若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シタルトキ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

已警收第七一四一號

大正六年十一月二十九日

福島縣知事川崎卓吉

内務省警保局長殿

扶助料支給ニ關スル件

戸主タル兄ノ戸籍内ニ在リテ死亡シタル巡査ノ寡婦兄ノ家ヨリ分家スルトキハ巡査看守退隠料及遺族扶助料法第十九條ニ依リ其ノ家ヲ去リタルモノトシテ扶助料ヲ受クヘキ權利消滅スヘキモノト解セラレ候得共取扱上疑義相生シ候条貴官ノ御意見兼知致度〆此段及照會候也